

〔目的〕 若年女性の色彩感覚がどのようなものであるか、また、形態の選択がどうであるかとくに正常体重者と肥満者との相違をみるために、アンケート調査を行い、多くの女性が悩んでいる「肥満」について、有効な対応を色彩と形態の選択面から追求する。現在までの研究で得られた知見を第一報として報告したい。

〔対象と方法〕 色彩、形態選択の指向性ならびに生活形態と「肥満」の関係に関する、意識調査を51問、98項目について1990～91年にアンケート調査した。対象は某女子大・短大家政系学生、18～20歳の約450名であり、その内ここでは243名について分析した。正常体重と肥満の区別は、BMI（体重/身長²）を用いた。ただし、若年者と自記式回答などを考慮して、22.1以上を肥満とした。なお、主な調査項目は、日常の歩行・運動量、睡眠時間、アルバイトの有無、自宅通学か否か、食事の量と規則性、栄養バランス、疲労度と回復状況、酒・タバコ、嗜好品の摂取状況などである。

また、肥満状況についての自己評価（判断）、自分の顔型等と合わせて比較的好んで着用する色、柄、襟型、髪型等について関連性を調べ、コンピュータにより、基礎統計、クロス集計、相関分析等を行った。

〔結果〕 BMIの22.1以上は13.2%であった。そしてBMIと有意な相関は、ワンピースの色の選択と0.17、襟型の選択と0.14、他にセーターの色の選択が有意水準に近かった。色彩の選択は年間を通じて、紺、白、ブルーの順に多く、夏は白、ブルー、紺、冬には茶、黒、紺の順に多かった。肥満者では年間を通じて白、茶、ブルー、夏は白、ブルーと異なっていた（冬は同じ）。この差について今後分析を進めて行きたいと考えている。